

## 神田外語グループ、237校から過去最高の1077名が応募 全国学生英語プレゼンテーションコンテスト

神田外語大学・神田外語学院を擁する神田外語グループは11月28日、読売新聞社と共催で「第9回全国学生英語プレゼンテーションコンテスト」を開催し、文部科学大臣賞（最優秀賞）に上智大学4年生の大坪直央さん、奥はんなんさんが選ばれた。



2人は、3つのテーマの中から「全国の無人駅を活用！人々が集うクリエイティブな企画を提案」を選挙。山口県にある錦川清流線の無人駅を利用した展示ツアー「Nishidagawa Gallery」を考案し、オリジナルティ溢れるプレゼンテーションを行った。なお、第9回大会の本選の様子は、大会初となる



(最前列左から)三宅イオン執行役、氷見谷文科省国際課長、佐野佐野学園神田外語グループ理事長、大坪直央さん、奥はんなんさん、老川読売新聞グループ本社会長、沼田日本英語交流連盟会長(元駐カナダ・パキスタン大使)、角谷読売新聞英字新聞部記者

オンラインでの配信も行われた。同コンテストは、グローバル化が進む日本内外のビジネスの現場における、英語を使って表現する機会の増加を鑑み、実践的に応用できるコミュニケーションスキルアップの場と学生同士の真剣勝負の場を提供することを目的に開催している。なかでも、「問題を発見し、解決策を簡潔にまとめ提案する能力の育成」や「英語を使い、相手に訴えかけ理解を得る表現力の醸成」「グローバル時代の就業力を育成」など、学生のうちから海外に目を向け、国際的な産業競争力や国際交流を支える基幹的な「グローバルに活躍する人材の育成」を目指している。

第9回大会は、全国の大学生、大学院生、短大生、専門学校生、4年次以上の高等専門学校生、合計237校から過去最高となる1077名の応募があった。そのうち1次予選を勝ち抜いた263名が、11月21日に行われた2次予選に進出。11月28日には、2次予選を勝ち抜いた9組が、神田外語大学（千葉県美浜区）で開催された本選に出場した。

文部科学省からは、氷見谷大臣官房国際課長が出席し、選考委員会に選考された最優秀者に対し、文部科学大臣賞を授与した。授与に際し、氷見谷課長から、受賞者の努力を称えるとともに、他の入賞者、参加者の努力への励ましと今後の国際社会における活躍に期待する旨の言葉が贈られた。また、主催した神田外語グループ、読売新聞に対し、



見谷国際課長の励ましと今後の国際社会における活躍に期待する旨の言葉が贈られた。また、主催した神田外語グループ、読売新聞に対し、感謝の言葉を述べた。

最優秀賞ほかの結果は次のとおり。  
**■ 最優秀賞**  
 宮田果歩さん（国際基督教大学4年生）  
**■ インプレッション賞**  
 浅井菜々子さん（同志社大学3年生／東山成美さん（京都大学4年生）／遠藤日菜子さん（京都大学1年生）、上條茜里（立教大学4年生）、ジアニ・ハナさん／イクサン・アグステイン・ナターシャさん／スマイヤさん（3名とも東京工業大学大学院2年生）